

1 題材名 幼児とのふれ合い [A家族・家庭子どもの成長（3）ア・イ・ウ]

2 題材について

(1) 題材観

現在の日本では、家族形態も多様化し、家庭生活は様々に変化してきている。特に少子高齢化が進み、中学生が幼児と関わる機会も少なくなっている。

2018年の合計特殊出生率は、1.42%となり、出生数は91.8万人で過去最低を更新した。さらに待機児童問題もあり、子どもを産み育てることを悩む人も増えているのが現状である。

特に気になるのは、子どもに関わる事件の多さである。記憶に新しい野田の事件等を見ても、子どもを物のように扱い、思い通りにならないと傷つける。子どもは生き物であり、意志や感情をもって生活をしている。大人の都合のいいようにならないのは当たり前である。子どもに対する理解の低さが、このような事件を招いているのではないかと考える。

新学習指導要領では、「課題をもって、家族や地域の人々と協力・協働し、よりよい家庭生活に向けて考え、工夫する活動を通して、家族・家庭の基本的な機能を身に付け、これからの生活を展望して、家族・家庭や地域における生活の課題を解決する力を養い、家庭生活を工夫しようとする実践的な態度を育成する」ことをねらいとしている。人工知能の飛躍的な進歩もあり、衣食住にかかわる生活の全てについても大きな変化を遂げていくと考えられる。しかし子どもを産み育てるということについては、現在と変わらず、丁寧に考えておこなっていく必要があるのではないかと感じている。

だからこそ、授業で行われるふれ合い体験等で学んだことを将来生かせるように指導していきたいと考える。そのためにも、幼児の成長についての知識をしっかりと身に付け、理解を深めさせていきたい。さらに、自分の生まれ育った環境を振り返り、周囲の人々への感謝をする機会としたい。



(インターネット「日本経済新聞」より)

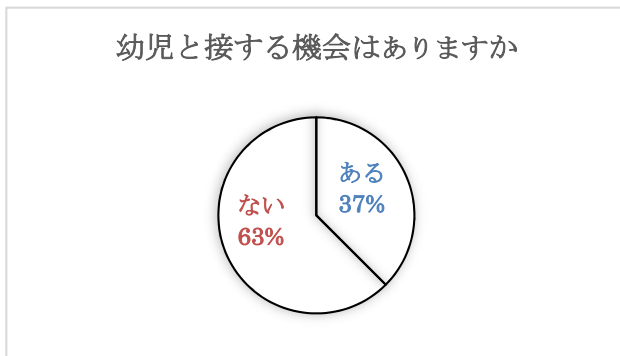
(2) 生徒の実態

アンケートより、幼児とのふれあい体験は少なく（63%が幼児との遊びの経験はないと答えている。）、幼児期の兄弟・姉妹がいるという生徒は学級の中に数名しかおらず、親戚や近所の子どもとたまに関わりがあるという程度のものであった。

しかし、子どもはかわいいもので、好きだと答える生徒が多くいる。経験からくる「かわいい」というよりは、テレビ等から受けるイメージでの解答になっているように感じる。

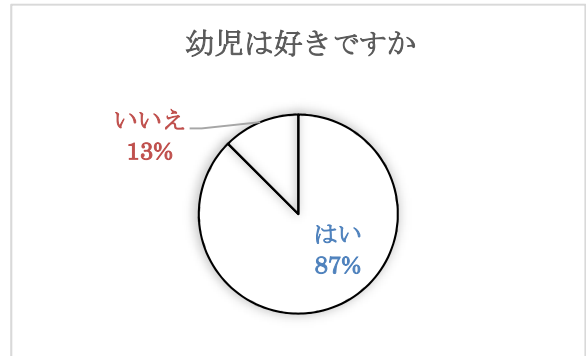
自分の生育歴について、小学校の総合学習の時間などに保護者に聞く機会もあったようだが、実際にはあまり覚えていない様子もみられた。

義務教育の最終年度を迎えた今、将来について考えることも増えてきた。自分が生まれ育った環境を振り返ると共に、将来の自分のあり方についても考えさせていきたい。



【はい】

- ・兄弟
- ・姉妹
- ・親戚の子（いとこ）
- ・近所の子（友だちの兄弟）

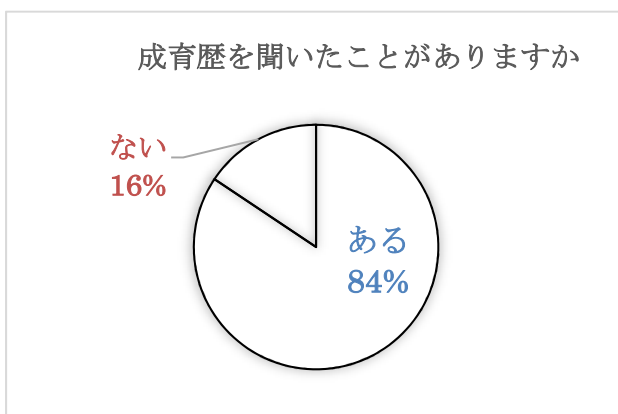


【はい】

- ・愛らしい
- ・素直
- ・元気
- ・一生懸命
- ・かわいい
- ・笑顔

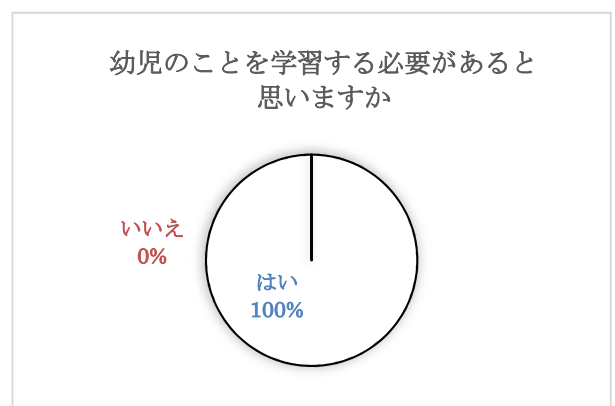
【いいえ】

- ・どう接すればいいかわからない
- ・物を壊す
- ・何を考えているかわからない
- ・言うことを聞かない



【聞いた内容】

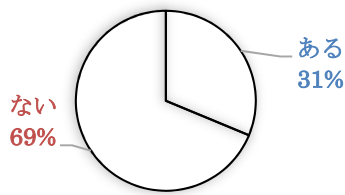
- ・生まれた時の様子
- ・名前の由来
- ・小さい頃の様子  
(好きな遊び)  
(好きだったもの)



【理由】

- ・将来家庭を持った時に必要だから
- ・どんなことが危険で大切なのがわかる
- ・子どもとかかわる時に役に立つから
- ・突然思いがけない行動をすることがあるから

ふれ合い体験で心配なことは  
ありますか



#### 【ある】

- ・ケンカをしたり，言うことをきかないかもしれない
- ・作ったおもちゃでちゃんと喜んでくれるか不安
- ・転んだりしたときにどのように対応したらいいかわからない
- ・どう接していいかわからない
- ・相手（幼児）を傷つけてしまわないか心配
- ・以前居ただけで泣かれてしまったことがあるので怖がられないか不安
- ・きちんと理解してあげられるか心配

### （3）指導観

幼児との関わりがほとんどない生徒も60パーセントを超え，実際にふれ合うことに不安を抱えている生徒も少なくなかった。子どもの気持ちを理解するために，実際におもちゃ等を利用し遊んでみることにした。幼少期には自然と遊んでいたはずだが，年齢が上がるとともに恥ずかしさや意識の変化から『遊ぶ』ということを楽しめなくなってきた。幼児とのふれ合い体験を前に，子どもの気持ちを知るために，実際に自分たちで活動してみる必要があると考えた。

成長とともに，幼い頃の気持ちを忘れがちになっている中学生に幼児の気持ちをしっかりと考えさせる機会としたい。そして，この学習をもとにふれあい体験での幼児との関わり方やおもちゃについても考えさせていきたい。

### 3 題材の目標

- ・幼児との触れ合いに関心を持ち，幼児の発達と生活について，自分の課題を見つけることができる。

#### [関心・意欲・態度]

- ・幼児の生活と家族について関心を持って学習活動に取り組み，家族又は幼児の生活をよりよくするために実践しようとする。

#### [工夫・創造]

- ・家族又は幼児の生活について課題を見付け，その解決を目指して製作や幼児とのふれあい活動の計画を自分なりに工夫している。

#### [技能]

- ・幼児の遊びや幼児の発達と家族について，観点に基づいて観察し，整理することができる。

#### [知識・理解]

- ・幼児の心身の発達の特徴や発達を支える家族の役割について理解をする。

#### 4 指導計画について

##### (1) 3年間の指導計画

学年	技術分野	家庭分野
1 学 年	A材料と加工技に関する技術 D情報に関する技術	B食生活と自立[30時間] (1) アイ (2) アイウ (3) アイウ D身近な消費生活と環境[5時間] (1) アイ (2) ア
2 学 年	Cエネルギー変換に関する技術 B生物育成に関する技術	C衣生活・住生活と自立[30時間] (1) アイウ (2) アイ (3) アイ D身近な消費生活と環境[5時間] (1) イ (2) ア
3 学 年	D情報に関する技術	A家族・家庭と子どもの成長[17時間] (1) ア (2) アイ (3) アイウ

##### (2) 題材の指導計画 (3時間扱い) (本時3/3)

	学習内容と学習活動	具体の評価規準と評価の方法
1	・幼児に対するイメージや、ふれ合う前の気持ちを確認し、ふれあい活動の様子を知る。 ・ふれ合いに関して不安を共有する。	・幼児とふれ合うことのねらいや学習内容を知ろうとする。【関心・意欲・態度】
1	・幼児の好きな室内遊びを体験し、幼児の気持ちを考える。	・幼児とのふれ合いに関心を持ち、遊びを通じて幼児の気持ちを考えることができる。 【技能】(経過観察・ワークシート)
1 本時	・実際に遊んでみたことから、幼児とのふれあい活動の際に気を付けなければならないことを共有する。	・幼児とふれ合うことに関心を持ち、幼児とのふれ合い活動の際の自分の課題をもつことができる。【工夫・創造】 (発表・ワークシート)

##### (3) 学習のつながり

3年生に進級し、生育歴等を振り返りながら、自分がどのように育ち、大切にされてきたのかを学んできた。その知識を元にしなが、子どもの成長に関する基礎知識を学んだ。家族との関係や身体や心の発達を理解するために、実際に幼児はどのようなことを考えるのかというのを体験する授業としたい。そして、この経験を生かし、幼稚園や保育園とのふれあい体験の際に用いるおもちゃ作りや、関わり方を考えさせていく。

5 本時の指導

(1) 小題材

幼児の気持ちを考えよう

(2) 目標

- ・ 幼児とふれ合うことに関心をもち、幼児とのふれ合い活動の際の自分の課題をもつことができる。

【工夫・創造】

(3) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料・道具
5	1 前時の学習内容を確認する。 ・ 各班で行った遊びの内容を確認する。	・ 人形 ・ おままごと ・ ごっこ遊び ・ 昔遊び ・ ねんど ・ 自由工作	
5	2 本時の学習内容を確認する。	・ プレゼンの方法を確認する。	
ふれあい体験で気を付けるべきことは何だろう？			
30	3 プレゼンを行う ・ 班ごとに簡単なプレゼンをする	・ 各班5分を目安に自分の班がどのような遊びを行い、どのような感情の動き・行動があったかを発表する。その後、気を付けるべき点を述べる。 ○タブレットを使い、遊びの様子を伝えることができる【工・技】 (発表) ○各班の発表に興味を持って聞くことができる。【関】 (観察・ワークシート) ・ 静かに聞く。	ワークシート タブレット
10	4 各班の発表から、ふれあい体験時に気を付けなければならないことを全体で確認する。	・ ふれ合い時の注意点から、自分ができることを考える。	
	5 次時について知る。	・ 注意点に気を付けながら、おもちゃ製作を進めていくことを確認する。	

(4) 板書計画

ふれあい体験の際に気を付けることは何だろう

【注意しなければならない点】

1 班

2 班

3 班

【遊んだ内容】

1 班→

2 班→

3 班→

4 班→

5 班→

6 班→

4 班

5 班

6 班